

支縁



<http://www.kisokobe.com>

神戸国際支縁機構(KISO)季刊誌

【発行人】岩村義雄

【事務局】〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101

Tel(078)782-9697 Fax(078)784-2939

E-mail:kiso@mbe.nifty.com

年4回 2月、5月、8月、11月

購読料 一部320円+送料80円(年ぎめ 1,600円)

価値ある美しい木

神戸国際支縁機構理事
宮城学院女子大学教授

新免 貢

知り合いの被災者から年賀状が届きました。「お変わりございませんか。当方は貧困フリーラー、Wワーク、夜勤シフトに追いまくられています。東京での避難生活は心身共に疲弊しました」。「アベノミクス」は被災

者には実感しにくいのです。震災が金儲けの機会として利用されつつあります。「お金がすべて」に抗う仕方で、神戸国際支縁の働きは、人が人として人を支えることを貫きます。まるで、激流のそばで、流れそうで流れられないしなやかな木に似ています。大木ではありますがないが、弱さを「いのち」として立ち続ける木は、樹齢千年超えの天然記念物よりも価値があり、美しいのです。

次に、わたしたちが毎回宿泊する修空館の小野寺脩館長による

「百二十歳の長寿をめざす体操」が演じられました。ユーモアいっぱいの指導に全員、年齢を忘れて笑い転げるように、



わたしの 石巻市 渡波 収穫祭

渡波ではじめて、秋の収穫祭をするようになりました。渡波地区振興協議会が主催で、当機構も参加することになりました。

十一月二十日十時、開始。万石浦幼稚園の園児たち六十名がよさこい踊りを踊つてくれました。鳴子を手に元気よく踊る姿に、出席者は励まされたのか、アンコールの声も掛かり再度演じてくれました。来賓のあいさつとして、末永秀雄渡波町区長、丹野清市会議員、米谷富宏支所長、阿部清義大宮町区長、千葉幸一宇田川行政区長と続きました。多忙な中、石巻森林組合鈴木健一代表理事組合長もありさつをなさいました。

提供しました。臭みなどなく、肉も柔らかく、豚汁では味わえない高級料理でした。生まれてはじめて食べる人たちも、お代わりをなさいました。十二時間の準備の成功の背景には、地元の婦人会の献身的な思いやりがこもっていました。佐藤金一郎氏の手品にも聴衆は沸いて、笑いました。

ビンゴゲームの司会 藤本志帆さん、宮崎萌美さん、小川沙織さんが担当しました。老いも若きも番号の発表に一喜一憂しました。なしろ高齢者たちもいるから、「もつとゆっくり数字をもう一度」と何度も催促されました。

吉野雄一会長から神戸国際支縁機構にねぎらいの言葉をいただきました。何の役にも立つていないので、どかしい気持でした。後に千葉氏が来年の秋以降も収穫祭をつづけたいと締めくくりました。

のり(漁業協同組合長丹野氏提供)を包んだ古代米のおにぎりの味はどうか、ボランティアは不安でいっぱいでした。固い、ねばっこさがない、甘くないと瑞穂の国では米の味に敏感ですから、食後の感想を恐る恐る聴いてみました。すると皆さん、「おいしい」の連発。牡蠣汁も好評でした。調理の腕のきわめつけとして、鹿肉による汁ものも調理して



た。すると二コニコと大学生たちが、応じる姿も好感がもたれました。

次に、わたしたちが毎回宿泊する修空館の小野寺脩館長による「百二十歳の長寿をめざす体操」が演じられました。ユーモアいっぱいの指導に全員、年齢を忘れて笑い転げるように、鳥、猿、虎、熊、鹿になりきつて固い体を動かす。皆さん十歳若返った顔をしていました。

吉野雄一会長から神戸国際支縁機構にねぎらいの言葉をいただきました。何の役にも立つていないので、どかしい気持でした。後に千葉氏が来年の秋以降も収穫祭をつづけたいと締めくくりました。

大震災は無縁社会、孤族をますます広めました。単身の高齢者、水産の仕事がなくなつた中高年男性に「自己責任」をせることはできません。地縁、血縁の関係をはずたにした震災の影があります。新しい縁作りに収穫祭は息を吹き込むきっかけになればいいなあと地元の指導者たちは期待しています。

在宅被災者戸別訪問

事務局員 吉川 潤

伊勢町のレポートは前回に続きます。

地震の大きな揺れの後、娘さんと手をつないで逃げ、一命を取り留めた豊嶋さん親子がはじめて話された体験を紹介します。母親（八十代）とその娘さん（五十代）です。十一月二十日の渡波公民館の収穫祭にもご出席くださいました。

大きな揺れの後、二人は避難所の渡波小学校へ向かいました。雪が降っていたため長靴を履き、傘をさして逃げました。「私たちはもう一度地震きたら家が倒れんじゃないかと思つて、逃げなきやつていう気持ちだけだつた」途中、避難所指定の渡波小学校も危ないと聞き、渡波駅ホームのフェンスにつかまっていた時に津波に呑まれてしましました。ずっと互いの手を離さなかつた二人は、幸い近くにいた男性数名に引っ張り上げられてからうじて助かつたのです。その際、水を飲んでしまいました。「ヘドロつていうより、ガソリンのよう、汚物のような、もう海の水の色じやなかつた」全身濡れてしまつたため、震えが止まりませんでした。駅前に車で避難していた女性にさいわいなことに着替えを借りることができました。続いて、駅前に止まつていた巡回バスに入れてもらい、暖房の効いた車内で一晩過ごすことができました。助け合いによって命拾いをすることができました。運転手は証言していました。海岸線を走つている時、日和大橋から海を見ると、すり鉢状態にえぐれているのを見て、こわくなつたそうです。機転を利かせ、すぐに渡波駅まで引

きました。

大きな揺れの後、二人は避難所の渡波小学校へ向かいました。雪が降っていたため長靴を履き、傘をさして逃げました。「私たちはもう一度地震きたら家が倒れんじゃないかと思つて、逃げなきやつていう気持ちだけだつた」途中、避難所指定の渡波小学校も危ないと聞き、渡波駅ホームのフェンスにつかまっていた時に津波に呑まれてしましました。ずっと互いの手を離さなかつた二人は、幸い近くにいた男性数名に引っ張り上げられてからうじて助かつたのです。その際、水を飲んでしまいました。「ヘドロつていうより、ガソリンのよう、汚物のような、もう海の水の色じやなかつた」全身濡れてしまつたため、震えが止まりませんでした。駅前に車で避難していた女性にさいわいなことに着替えを借りることができました。続いて、駅前に止まつていた巡回バスに入れてもらい、暖房の効いた車内で一晩過ごすことができました。助け合いによって命拾いをすることができました。運転手は証言していました。海岸線を走つている時、日和大橋から海を見ると、すり鉢状態にえぐれているのを見て、こわくなつたそうです。機転を利かせ、すぐに渡波駅まで引

き返していました。

家は堤防が決壊した海岸からまつすぐ四百メートルのところにあります。一階は津波に流されてしまったので改修中は親戚宅に身を寄せ、二〇一二年五月に戻つてきました。ここにいるのは怖いのでどこか別の場所に引越したかったのですが、一から建てるとなると、直すよりお金がかかるためやむなく戻つてきました。

「長浜の海水浴場もよく行きました。泳いだり、散歩もよく行つてたのに：あの津波以降、一度も行つてない。見たいは見たいような、しかし、行きたくないも行きたくない：ここ離れていても夜になると、すごい波の音が聞こえきます。」

二人は一九六〇年に起きたチリ地震も経験しています。娘さんは五歳でしたが、当時のことをよく覚えています。「大宮神社に逃げた。お父さんが海を見に行つたら、おばあさんが『(津波が来るから) 逃げなきやないよ』って。あの時は床下(浸水)ですんだ。今回「駅の方へ逃げずに、二階にいれば水



石巻市伊勢町の戸別訪問の光景

「車に荷物積んでいる人を見て、『いいよね～車ある人たちって』ってつぶやきながら、逃げました。しかし、町内の連携プレーというか『逃げっぺし』って声を掛け合うことが必要だったと思うのに、悔やまれますよね。」

海には堤防があるから大丈夫と逃げなかつたご老人もいました。家にいる奥さんを迎えて流された人、家族を失つた人たちを思つて、ただこう、ペローンとして生きていていいのかつて思います。(私たちが) 生かされた命とおっしゃられるけど、いい方たち、立派な方も多く亡くなつてつからね。」と、複雑な心境を語られました。

当時の反省点に立つて、震災体験を冷静に振り返つておられます。見も知らない私たちにはじめて証してくださいました。



株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長

上田 利昭

tutu anna™

MiYOSHi

ミヨシ石鹼株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341



竹中工務店

www.takenaka.co.jp

新生田川共生会

(ホームレス自立支援の会)

TEL 078-392-0327

東日本大震災以降、
神戸国際支縁機構に協力



いよいよ稲刈りスタートです。参加者が

稻刈り(その一)

山本 智也

十月、「田んぼアート」の古代米も生い茂り、傾むきかけている稲穂が目立ちました。八月の終わり頃が一番、コウノトリのデザインが際立つていたように思えます。

神戸からのメンバーは、稲刈りを経験したことがほとんどありませんでした。

震災で弟をなくされた阿部勝さん（七十歳）は、刈り方と束ね方を教えてくださいました。「ザクッザクッ」と小気味良い音とともに、みるみるうちに稲が刈られていきました。八～十株をひとまとめにして置いていきます。続いて刈り取った稲を束にして数本の稲わらでくるりと回していくとも簡単に束ねてしまいます。みんなポカんと見ていきました。

やつてみると、ザクザクという気持ちの良い感触と音がしません。なぜなら、古代米の苗を田植えする際、二～三本ではなく、六～九本ほど植えていたせいです。素人では、鎌の一回の刈り込みでは切れないからです。神戸から人數分「のこ鎌」を用意していました。まるでノコギリのようにこしごしと一束を切り落とさねばなりません。一回ではなく、力を入れて束を切り落とすのは女性参加者には相当きびしい労働だったにちがいありません。しかし、慣れてくると、「ザクッザクッ」という音と手に伝わる感触が気持ちよく、すっかり熱中していきます。

三株ほどの稲を一つに束ねます。束ねた稲を二～三本の細い藁で紐代わりにして、ぐるりと一巻きにし、きつく縛ります。藁の両端を交差させて撫ります。撫った藁を輪の中へ

通してできあがりです。これできっちりと稲は束ねられます。稲刈りは刈るよりも束ねる方に時間がかかります。親指で押し込んで束を仕上げるのです。親指が痛い」とか言い出し始めます。手伝つててくれた地元の農家のたくましい大場さんも初日で、「キツイベ」と音を上げておられました。

十一種類の古代米ですから、一度にコンバインで一気に刈り込むわけにはいきません。とてつもない作業に参加者の思いには一日間で刈り終われるのだろうかと、よぎりました。しかし、ボランティア参加者はだれひとり文句も言わず、黙々と稲刈りを続けました。初日には、三三反の内ごくわずか、十分の二ぐらいしか刈り取ることができませんでした。

（次号に続く）

神戸 地域ニュース 24

西欧の風景情感豊かに

洋画家菅原洋人さん 山手通りのダイヤモンド館で個展が27日 中央区中央一丁目の風景や物を展示了。中央区で個展を始めたばかり、ヨーロッパの風景や物を題材にした。また、現地で絵を描いて販売する。4月1日まで開催される。

龟山鉱石巻市長に絵を贈呈

神戸新聞 2012年3月28日

SERVING MANKIND
Humanity First
「ヒューマニティ・ファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会

ヒューマニティ・ファストは、震災翌日の3月12日、千人分の食料を積み込み名古屋から被災地へと出発。石巻市内の避難所でパキスタンカレーを提供。当機構と連携する団体です。

特定非営利活動法人
み も ざ
TEL 078-262-0460
医療・保健介護・
福祉・教育に関する事業
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は
本田商会
〒662-0051 西宮市羽衣町5-23
電話：0798-38-7560
FAX：0798-38-7561
お気軽にご相談ください。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

夢に近づく
夢を産み出す…
KINSAN
KS 近畿産業信用組合
総合コールセンター
0120-111-019



連載「田・山・湾の復活」 (その一)

岩村 義雄

午後二時四十六分、荒廢がすごいのです。見渡す限り、がれき、崩れた家屋、震災の爪痕がどこまでも続きます。石巻市でも四千名近くの人々が犠牲になりました。「恐懼と陷阱、また暴行と滅亡、我らに来れり。わが民の女の滅亡によりてわが眼には涙の河ながる」（哀歌三・47～48『文語訳』）。津波は石巻市牡鹿半島の北東にある笠貝島を襲いました。高さ（溯上高）は四十三メートルです。明治三陸地震を上回ったのです。山の樹木も海におおわれ、木々もだいなしになりました。田んぼにも自動車などが串刺しになっています。日本で一番おいしいカキ、ノリがとれる万石浦湾で生活する漁業の家も冠水でつかつてしましました。

山からの水が田んぼの稻などを育てます。きれいな水がおいしい作物を作ります。無農薬、

趣旨に賛同してくださる方は、
何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、 一口 2,000円/1年

賛助会員は、一口 5,000円/1年

- ・郵便振替 口座 00900-8-58077
加入者名 一般社団法人 神戸国際支線機構
 - ・三菱東京UFJ銀行
462(三宮支店) 普通 3169863
神戸国際支線機構 岩村義雄

(社)神戸国際支縁機構

・ボランティア募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。詳細はホームページ。

- ・被災地への支援物資もお願いします。

・年会費をお願いします。

会員(年度3月～翌4月)の皆さんには、季刊誌などをお送りします。

助成：神戸市パートナーシップ活動助成、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」、しみん基金神戸を有効に用いています。 事務局長 本田 寿久

編集後記

2012年5月、石巻市にて兵庫県の高校生達と共に田植えや漁業養殖を行いました。

半数が女子生徒でしたが、参加の動機を尋ねると、被災地に対しひの関心が高いのです。彼らなりの意見をしっかりと持っているのに驚かされました。ボランティア参加によって価値観が変わったと言う高校生もいました。

ボランティアは「小さな美しいこと」をするのか目的ではありません。自らを被災地で共苦する行為です。実際、12月には車椅子の方、80歳の方も参加しています。有能な人が効率、能率を追求してするのではありません。ひ弱な者でさえ、主体的にかかわり、気が付いたら石巻市にいたというのがいいのです。自由な中に新しい責任の感性が育っています。参加者が東北から帰ってきた時に、皆、目を輝かせて新しい縁について語っていたのが印象的です。被災者は「置き去りにされるのではないか」という不安がもたげています。メディアに出ない寂しさ、くやしさ、怒りに寄り添い、皮膚感覚で共有しましょう。あなたも伴走者になってください。(T.H)

有機の土から出る排水が川となり、海に注がれます。「川はみな海に注ぐが海は満ちる」となく、どの川も、繰り返しその道程を流れ環しています。山から海へ行き巡り、海洋で蒸発し、雨となつてまた山に降り注ぐのです。地球が誕生してからずつと自然界の生命もお互いに縁があります。肉食動物によつて草食動物が食い尽くされなかつたはどうしてでしょうか。草が地球のいたるところにあつてありつけたからです。胃袋の大きい牛、羊、うさぎなどの草食動物はたくさん子供を産みます。反芻する生き物の胃には特別な微生物がいます。消化に役立つ微生物と助け合つて生き延びてきました。肉を貪る獸が襲いかかり、草食動物の数が少なくなります。すると餌がなくなり肉食う獸が減ります。一方、おぞろしい獸がいなくなるといつしか食われる小動物の数が増えたりします。何世紀も繰り返されてきました。(次号に続く)

皆さまからの会費、クリスマス献金などの
ご協力を感謝します。

協賛広告費を含む会計報告

2012年10月1日～2013年1月18日

株式会社チュチュアンナ、菅原洸人、塙屋キリスト教会、中島信光、
保田薰、岡崎孝、NPOみもざ、阿部捷一、酒井彰、西上千栄子、
高橋瑞枝、石田朝子、兵庫キリスト者障害者共励会、村上安世、
原浩司、阿部勝徳、大場盛之、鍋島隆、新免貢、手島勲矢、
溝田悟士、山崎製パン株式会社、ミヨシ石鹼株式会社、村田充八、
白方誠彌、近畿産業信用組合、しみん基金神戸、
株式会社竹中工務店、新生田川共生会、岸本実、水垣涉、関弘典、
磯辺基博、森祐理、原田洋子、大嶋善直、船木多喜子、安立昇、
三浦照子、後藤由美子、石原寛子、鬼頭庸介、石川久子、
高野山真言宗吉祥山西方院、坂井良行、飛田雄一、大田正紀、
森一郎、赤松竜、近藤剛、内本光一、豊原大成、西福寺、西川一樹、
尾島淳義、小野寺脩、飯原洋子、廣森孝子、ゲーベルひでみ、
岡田和磨、有川善雄、勝村弘也、茂洋、坂東滋巳、
在日大韓基督教神戸教会、日野謙一、是枝律子、本田商会、
本田すみ代、岩村義雄、神戸国際キリスト教会

匿名で、2012年11月17日、「シエンキコウノタメニ」と20万円を封筒に入れて、事務局のドアポストに投函してくださった方にも感謝申し上げます。 合計1,489,300円

合計 1,485,500 円